

氏名	加賀美 常美代 KAGAMI Tomiyo
所属 職名	人間文化創成科学研究科文化科学系 教授
学位	文学博士（東北大学）
専門分野	異文化間心理学、異文化間教育、多文化間カウンセリング
URL	http://jsl.li.ocha.ac.jp/kagami.htm
E-mail	kagami.tomiyo@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

異文化間コンフリクト
教育価値観
コミュニティ アプローチ

intercultural conflict
educational value
communtty approach

主要業績

- ・加賀美常美代 2010「第4章 多文化間カウンセリング：コミュニティ心理学の視点から」『言語と社会・教育』 中島平三監修 西原鈴子編 朝倉書店 pp49-74
- ・加賀美常美代・朴志仙・守谷智美・岩井朝乃 2010 「韓国における小学生・中学生・高校生・大学生の日本イメージの形成過程?日本への関心度と知識との関連から?」『言語文化と日本語教育』 第39号 お茶の水女子大学日本言語文化学会 pp41-49
- ・加賀美常美代「日本語学習者の教育価値観の国際比較：7カ国の大学生調査」『世界日語教育大会論文集(台湾)』 pp1239 (0-9)
- ・加賀美常美代 2011 平成20年度?22年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書「教育価値観の包括的研究：国際比較と世代間比較」 pp1-98
- ・加賀美常美代・大淵憲一「教育価値観の年代・世代間比較」『日本社会心理学会第51回発表論文集』 pp578-579

研究内容 / Research Pursuits

1. 教育価値観の国際比較と世代間比較 科研で教育価値観尺度に基づき7カ国の大学生を対象に調査を実施し比較検討した。また、日本における教育価値観の世代間比較調査を実施し比較検討した。2008年から2010年までの一連の共同研究結果をもとに教育価値観の包括的研究として報告書を作成した。2. アジア諸国の日本イメージの形成過程と規定要因 CSDの異文化間コミュニケーション・プロジェクトで、韓国の小学生から大学生までの日本イメージ形成の量的調査の分析および論文化を行った。3. 葛藤解決のための異文化理解教育プログラム開発 CSDの一連の日本イメージ調査成果から、どのようなプログラムが集団間葛藤の解消および異文化理解に有効か、教育プログラムの開発をした。そのプログラムを実践し、成果を検討し発表した。

1. A Comprehensive Study of Educational Value: Comparison among countries and generations Under the Grants-in-Aid for Scientific Research, I conducted a research on university students' educational values by using Educational value Scales in seven countr

■ 教育内容 / Educational Pursuits

＜学部＞「多文化間交流論」は、参加型授業、協働的グループ活動を行った。留学生と日本人学生の交流、コミュニケーション・スキルの向上を目指した。「多文化共生論」は、4名のゲストスピーカーを招き多文化共生社会の理解とグループ討論を行なった。「文化と人間関係?」では、文化行動と心理学的理論をゼミナール形式で行った。「文化と人間関係?」では、異文化接触をテーマとする学生を対象に卒業論文指導を行った。＜大学院＞「多文化間心理教育学特論」では、文化と心理学の理論と研究方法について文献講読を通して講義を進めた。「多文化間心理教育学演習」では、多文化間カウンセリング、積極的傾聴、予防的支援活動の方法のスキル向上を目指した。

I delivered lectures of "Multicultural Communications and Exchange" and "Coexistence in Multicultural Society" for undergraduates. In these lectures, by adopting the methods of cooperative group works, I aimed at their improving of foreign and Japanese s

■ 研究計画

・多文化間の教育に関わる人◆X、多様な国籍の人々を対象に、葛藤解決方略と教育価値観、一般的価値観の関連を比較検討するとともに、教育価値観尺度の有効性について検討していきたい。・アジア諸国の対日イメージ形成過程とコンフリクト解決プログラムの開発を検討していきたい。

■ メッセージ

・多様な文化的背景をもつ人々は、日常生活で遭遇する異文化体験から様々な葛藤やストレスを抱えています。そのような時、周囲にいる人々はどのように理解し、関わっていったらよいでしょうか。コミュニティにおける多様性の意味や隣人として共に生きることはどのようなことか、一緒に考えていきたいと思っています。